

委託事業実施内容報告書

委託事業実施内容報告書

平成21年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】

受託団体名: イーエーエス浜松(EAS 浜松日本語教室)

1 事業の趣旨・目的

地域に在住のブラジル人児童生徒が日本社会との共生の推進を図ることを目的とする。かつ、不就学児童の解消の一助となること。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
5 月 11 日 (月)	倉橋徒夢、ABIDEMI ILERIKA、NAGAMI SANDRA、鈴木規之	開講について。指導内容と 進行。	科目や講師の振り分け、時間表、教室 運営、日本語指導などについて。
1 月 22 日 (金)	倉橋徒夢、ABIDEMI ILERIKA、NAGAMI SANDRA、鈴木規之	総括	児童生徒の学習能力および理解度について。

【写真】(会議風景の写真を1～2枚参考に添付して下さい。)

3 日本語教室の開催について

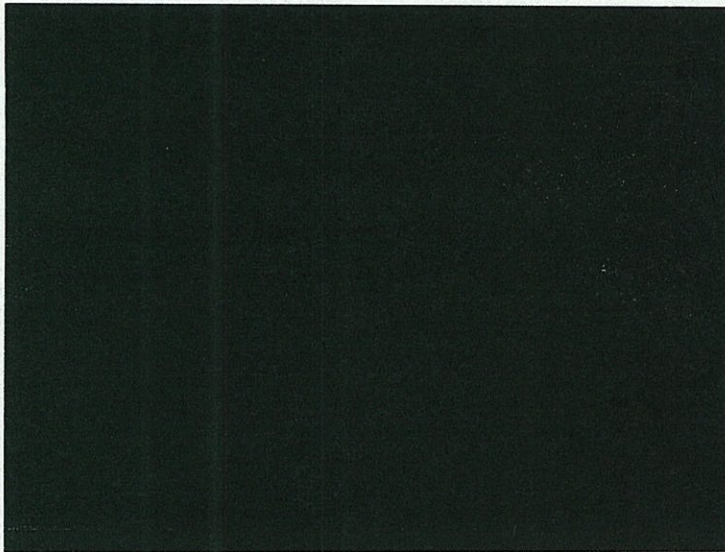
- ① 日本語教室の名称:EAS 浜松日本語教室
- ② 開催場所:435-0052 静岡県浜松市東区天王町 673-1
- ③ 学習目標:日本社会の共生に必要な日本語・日本の慣習を生徒たちに身につけさせる。
- ④ 使用した教材・リソース:自作テキスト、当校自作のひらがな・カタカナ練習帳など
- ⑤ 受講者の募集方法:当校登録済み児童生徒(ロコミやチラシ、保護者会での説明)
(※どこでどのような媒体を使って募集したかを記載。なお、募集のチラシ等があれば添付すること。)
- ⑥ 受講者の総数 105 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 3630 分=60.5 時間 (全 121 回) (小 5 年生)
開催時間数(回数) 3660 分=61 時間 (全 122 回) (小 4 年生)
開催時間数(回数) 3810 分=63.5 時間 (全 127 回) (小 3 年生・午前クラス)
開催時間数(回数) 3810 分=63.5 時間 (全 127 回) (小 3 年生・午後クラス)
開催時間数(回数) 3660 分=61 時間 (全 122 回) (小 2 年生)

⑧ 日本語教室の具体的内容

別紙の「日本語教室の具体的内容 20100414(EAS 浜松).docx」ファイルをご参照ください。

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)

(特徴が最もよく表れた日の授業報告を詳細に記載。また、教室風景の写真を数枚添付。)



7月8日に行った小5年生の授業。この日は年月日を学習しました。児童たちにとって、日本語での数の言い方が困難だったため、徹底した指導を行いました。自分の誕生日を日本語で言えるように練習し、他の人の誕生日を知りたいときの聞き方についても学習しました。

写真1:日本語教室風景①

5月7日に行った小3年生の授業。この日は、各児童が休みの日に何をしたか、そして、その感想を簡単な日本語で言えるように練習しました。多くの児童は、休みの日に家族とアウトドアで過ごすことが多かったので、いろいろな場面に合った感想が聞けました。

(右側の写真が実際の授業風景です。)

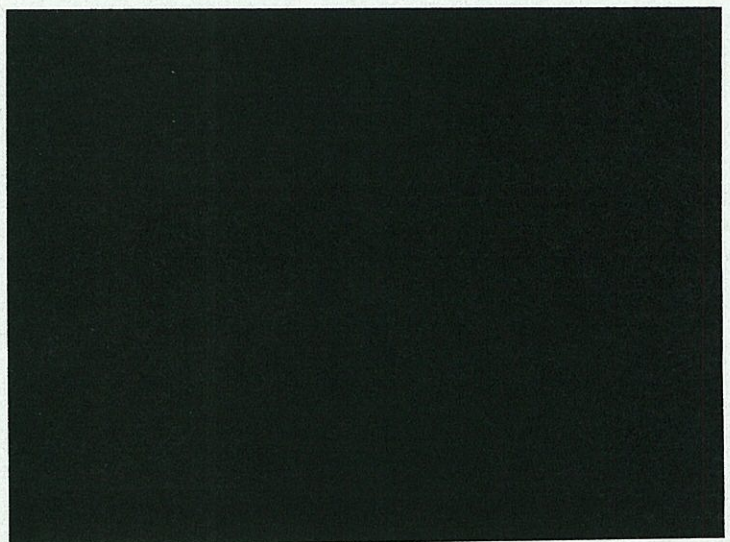


写真2:日本語教室風景②

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
Carmen Lucia Maekawa Paganotti	ポルトガル語(ブラジル国)	7年	121回	授業補助
Maria Aparecida Gustavo Midorikawa	ポルトガル語(ブラジル国)	15年	122回	授業補助
Eunice Olher Kimura	ポルトガル語(ブラジル国)	6年	127回	授業補助
Claudia Aparecia Hossoda Jarjura	ポルトガル語(ブラジル国)	12年	127回	授業補助
Maria José Mazotti Shimada	ポルトガル語(ブラジル国)	9年	122回	授業補助

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況:

当初設定された学習目標が達成されたと感じています。本事業をスタートする前、日本語に触れたことのない児童がほとんどでした。し、今では日本語を勉強したい児童が多くみられます。はじめ、日本語教室に来るとはしゃいだり大騒ぎしたりしていた児童たちが日本語教室に参加して勉強するうちに少しずつ落ち着いて勉強できるようになりました。

② 学習者の習得状況:

現在、児童たちの生活環境を考えると、日本語に触れている時間(日本語教室のみ)が限られています。これによって、児童たちが実践で日本語を活用できる場面も少ないが、日本語教室ではなるべく母国語を使わずにしています。その結果、児童たちの日本語での会話も段々増えていると感じています。今後とも日本語会話中心として指導を行って生きたいと考えています。

③ 日本語教室設置運営の効果、成果

本事業により、多くの児童たちが今まで触れたことのない日本語を体験して社会とのかかわりを持とうとしています。当校に来校した日本人のお客さんと日本語であいさつしたり会話したりする場面も増えています。更に、野外活動などで日本語を使う機会も増えています。これらをみると、以前になかったことから考えて、日本語教室の成果があると実感しています。

④ 地域の関係者との連携による効果、成果 等

周辺の小中高等学校(西遠・市立など)とは定期的に生徒間の交流を深めています。その際、学習した日本語を一生懸命に話そうとする児童たちの姿がみえます。この成果を引き続き継続させたいと思っています。

④ 改善点、今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

児童たちは教室でしか日本語を使う機会がなく、家に帰ると通常のポルトガル語生活に戻ります。さらに、学校内でも日本語教室以外で日本語が使える場所が少ないです。そのため、日本語の定着度が遅れている大きな要因になっていると思います。

b. 今後の課題

日本語教室を運営する以上、日本語の学習能力を向上させることにより、地域社会での生活を不利なく実現させることを最終目標になります。これに達するために、学校や親、そして周辺団体との連携が不可欠になります。支援者や日本語教育アドバイザーが来校できるような機会を増やすことに努めたい。

c. 今後の活動予定、展望

今度とも各 NPO と日本語教育に関する連携を深め、周辺の公立学校との交流が実現できるように努力していきたい。

③その他参考資料

・なし

※写真は、肖像権等に配慮し、差し支えないものを添付すること。

